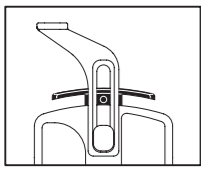


モデルのちがい クランプの対応径がいで2種類あります。

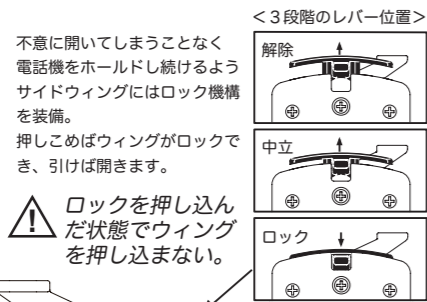
- iH-220-S : 22 ~ 29mm 径に対応します
- iH-220-M : 28 ~ 35mm 径に対応します

iH-220 の機能



側面だけでなく天地方向もホールドする安心設計。伸縮式アームは無段階にサイズ調整可能。

最大 75mm 幅までホールドできるよう、さらにワイドに開くサイドウィング。



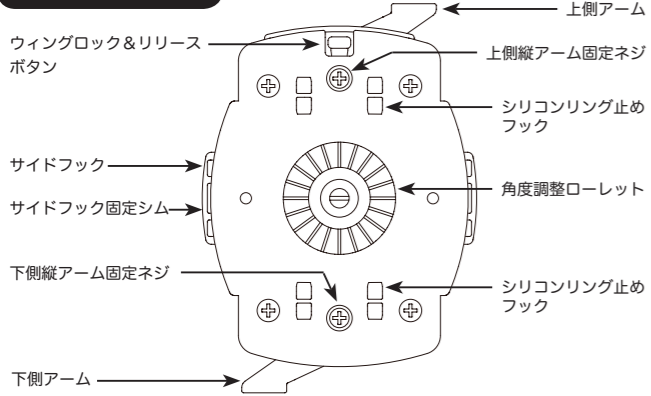
不意に開いてしまうことなく電話機をホールドし続けるようサイドウィングにはロック機構を装備。押しこめばウィングがロックでき、引けば開きます。

⚠️ ロックを押し込んだ状態でウィングを押し込まない。

⚠️ 使用時には必ずロックを確認すること。

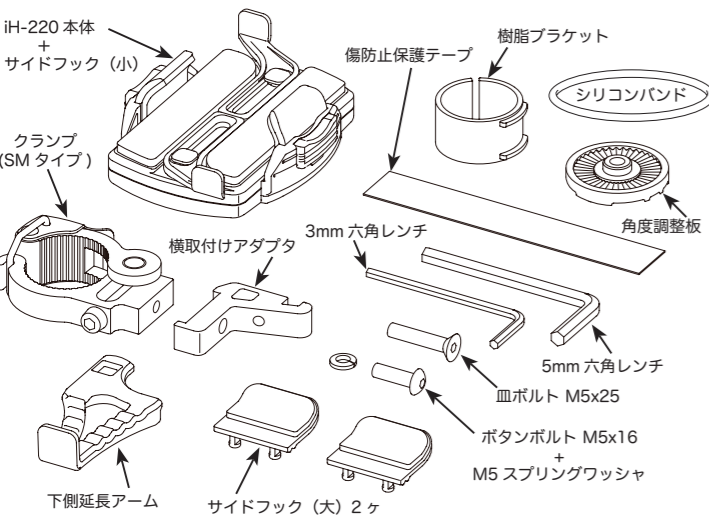
付属のシリコンバンドは、不意の電話機の落下を防止するため、ホルダと電話機とを一緒に保持しておくためのものです。

各部の名称 (背面)



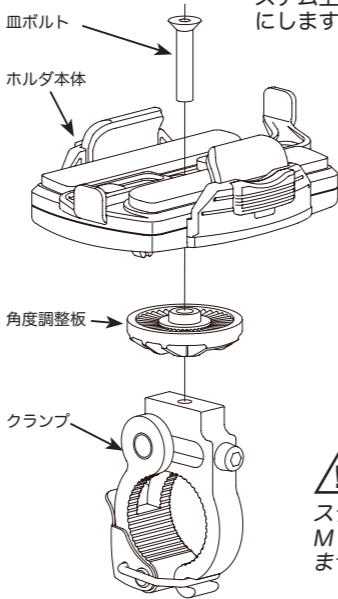
パッケージ内容

組み立ての前にお確かめください。もし欠品があれば販売店にご連絡ください。



取り付け方向 ①

クランプの真上に装着する方法。できるだけ電話機を手前に寄せたいときやステム上に装着した場合に、このスタイルにします。



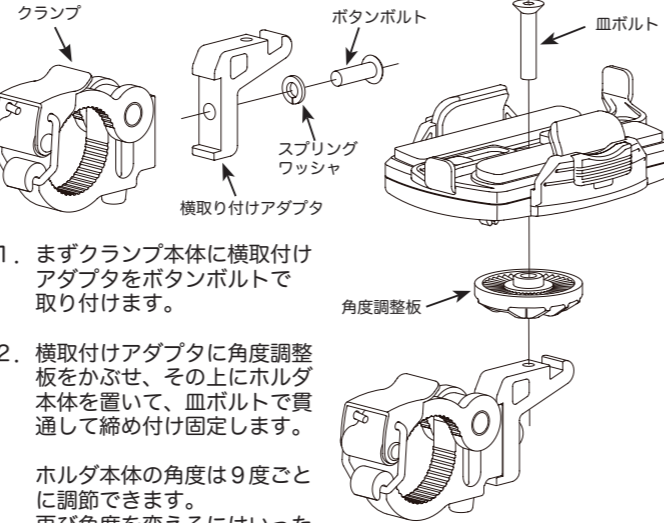
クランプのねじ孔の上に角度調整板をかぶせ、その上にホルダ本体を置いて、血ボルトで貫通して締め付け固定します。

ホルダ本体の角度は9度ごとに調節できます。再び角度を変えるにはいったん血ボルトを緩めてから行ないます。

⚠️ ステムに装着するには一般的にMサイズクランプでないとできません。

取り付け方向 ②

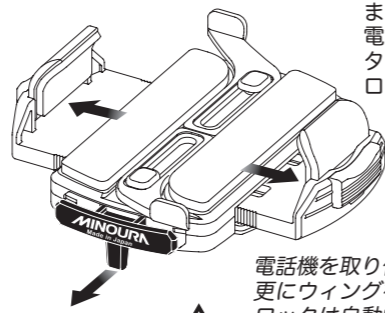
クランプの前に突き出して装着する方法。目線の移動量を少なくするため、電話機をできるだけ遠ざけたいときにこのスタイルにします。



1. まずクランプ本体に横取付けアダプタをボタンボルトで取り付けます。
2. 横取付けアダプタに角度調整板をかぶせ、その上にホルダ本体を置いて、血ボルトで貫通して締め付け固定します。

ホルダ本体の角度は9度ごとに調節できます。再び角度を変えるにはいったん血ボルトを緩めてから行ないます。

ウィングの開き方と閉じ方



赤いウィングロック&リリースボタンを引けばウィングは開きます。電話機を取り付けた後はこのボタンを押し込んでウィングをロックしておきます。



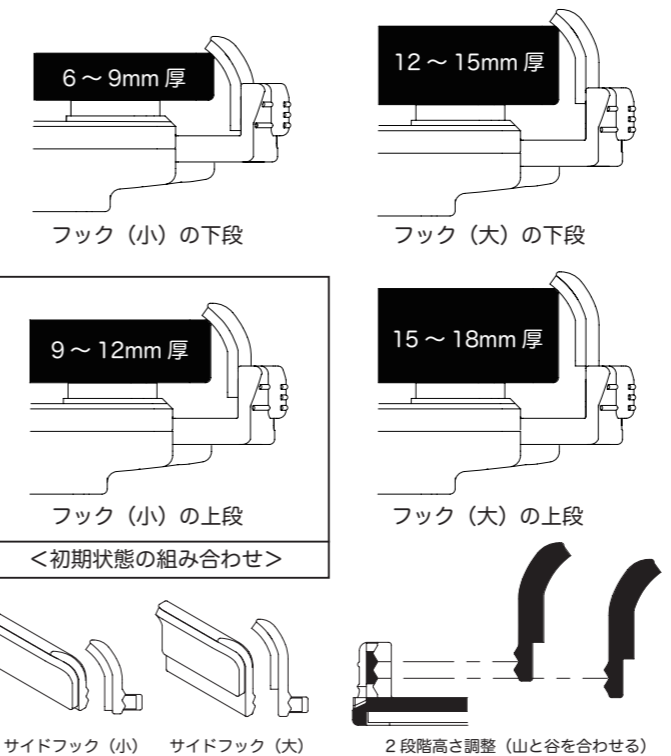
⚠️ 電話機を取り付けた後に増し締めとして更にウィングを押し込むと、機構的にロックは自動的に解除されてしまいます。必ず「最後にロックボタンを押し込む」ことを忘れないでください。

シリコンバンドの使用

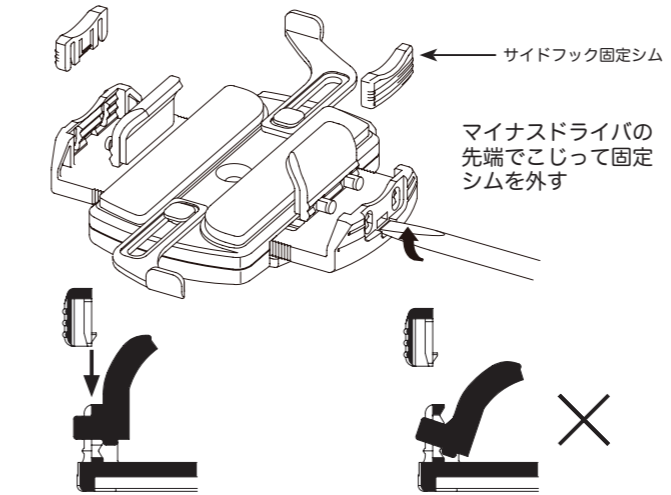
シリコンバンドはホルダ裏面の上下いずれかのフックにはめ込んでから電話機をホルダごと巻いて、不意の脱落を防止します。

厚みを合わせる

iH-220 には大小2サイズのサイドフックがあり、フック(小)が標準で装着されています。それぞれ上下2段階に取り付け位置を選べるので、合計4段階にフックの高さを変えられます。電話機の厚みに合わせて最適な高さにセットしてください。



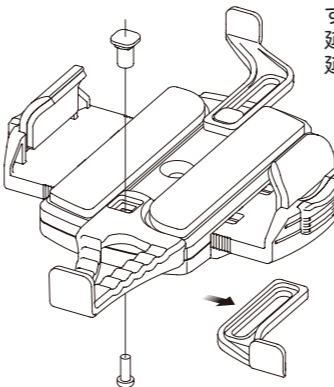
フックの付け替え



フックをウィング端いっばいに押し付けながら、飛び出たピンに上からシムをかぶせて固定します。奥までいっばいに押し込まれていることを確認してください。

フックが傾いているとシムはうまくはまりません。

下側縦アームの付け替え

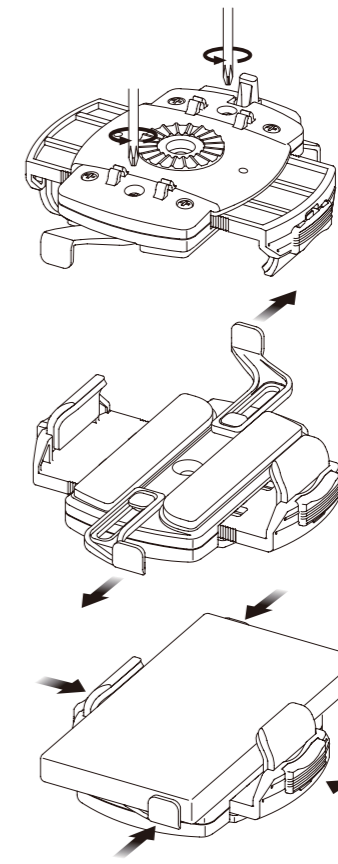


iPhone 6 プラスなど全長が 147mm を超え 163mm までの電話機を装着する場合は、下側縦アームを添付の延長型に付け替えます。延長アームの位置調整はできません。

1. ホルダ背面の下側縦アーム固定ネジを緩め、アームと保持ナットを取り外す。
2. アームを延長アームに取り替える。
3. 延長アームをホルダ本体に密着させたまま、保持ナットを上から挿入し、裏からネジを締め付けて固定する。

電話機に合わせる

電話機の天地サイズに合わせて上下アームの位置を調節します。



横に3つ並んだうちの中央のネジ(めっきのもの)を緩めるとアームを動かすことができます。

⚠️ 他のネジ(黒いもの)は緩めないこと。

縦アームをスライドさせ広げます。

電話機を載せウィングを閉じて、電話機を仮固定します。

⚠️

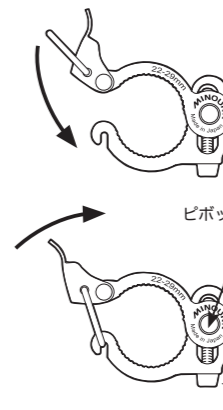
ウィングを閉じたとき電話機の電源ボタンがウィングによって押されてしまい電源が勝手に切れたりする場合は、添付のパッドを適当な大きさに切り、フックのパッド上に重ね貼りして逃げてください。

上下アームをそれぞれ電話機に当たる位置まで移動させてから、裏面のネジを締めて固定します。

電話機はできるだけホルダの中心で偏らないように保持させてください。

クランプの使い方

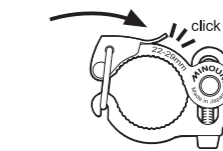
iH-220 のクランプは工具なしで脱着できるタイプです。(520 は工具が必要な固定型です)



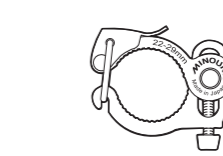
S サイズでは 25mm 径まで、M サイズでは 32mm 径までの場合は樹脂ブラケットを、それ以上の径の場合は保護テープをハンドルバーに巻き、その上にクランプをかぶせ、アームを閉じます。リングを下側アームのフック部に引っ掛けます。

レバーを起こしていったとき、ちょうど中間地点に来た時にぐっと重くなるように、側面の調節ボルトを回してピボットピンの位置を調節します。

調節ボルト

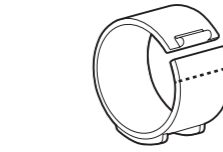


レバーが「パチン」と音を立てて閉じ、しっかりと固定されているようになるのが正しい状態です。緩いまたはきつい場合はいったんレバーを起こしてクランプを解除し、側面のボルトを微調整して合わせ直します。



⚠️ クランプを閉じた際に、側面のボルトの頭とクランプ本体との間に隙間がないことを確認してください。隙間があるままだと使用中に突然クランプが緩んでしまうトラブルになります。

クランプを閉じてから側面の調節ボルトを締め込んで固定するのは誤りです。必ず事前に調節してください。



⚠️ S サイズの 22mm 径の場合のみ、樹脂ブラケットを 10mm ほどカットしてください。